

科目名称：	アート演習	
担当者名：	今井 久美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
本授業は、室内装飾をはじめ、宣伝用ディスプレイ、冠婚葬祭、祝い事、贈り物など、商業空間、公共空間、日常空間、生活のあらゆる場面に適応する文化的教養を高めることを目的とします。		
授業の達成目標・到達目標		
授業の達成目標については毎回の授業ごとにレポートを提出することにより、理解度・習熟度を測ります。 ・ラッピング：講師の指導を受けながら基礎を学び、包むということを理解し、実際に包めるようにします。 ・フラワーデザイン：季節の花を用いて、講師の指導を受けながら、実際に基礎となる花形を生けます。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)			70	30	100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 フラワーデザイナー	《経験年数1》 25年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション	本シラバスを精読する。演習に必要な道具等の説明を受けて準備をする。	20分
第2回 実技 ラッピングの基礎① (キャラメル包装)	①キャラメル包装 配付資料を確認し復習	20分
第3回 実技 ラッピングの基礎② (リボンワーク)	②リボンワーク 配付資料を確認し復習	30分
第4回 実技 ラッピングの基礎③ (回転包装)	③回転包装 配付資料を確認し復習	30分
第5回 実技 ラッピングの基礎④ (手作りの熨斗袋)	④手作りの熨斗袋 冠婚葬祭に必要な知識の復習	30分
第6回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎① (ミルフール)	①ミルフール 花の美しい角度・葉の重要性を認識し給水など、保持することも学修	10分
第7回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎② (クリスマスリース)	②クリスマスリース 土台制作 行事として、また商業イベントとしてのクリスマスを考える。	30分
第8回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎③ (クリスマスリース)	③クリスマスリース デコレーションを考える。	30分
第9回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎④ (ハーバリウム)	④ハーバリウム 空間アレンジメントを考える。	20分
第10回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎⑤ (コサージュ)	⑤コサージュ ワイヤークの復習しておく。	30分
第11回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎⑥ (干支タペストリー)	⑥干支タペストリー 行事・祝儀について考える	20分
第12回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎⑦ (トピアリー)	⑦トピアリー 器制作の準備	30分
第13回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎⑧ (トピアリー デコレーション)	⑧トピアリー デコレーションの準備	30分
第14回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎⑨ (ミニチュアアレンジメント)	⑨ミニチュアアレンジメント プリザーブドフラワーの扱い	30分
第15回 実技・グループワーク フラワーデザインの基礎⑩ (作品制作)	①～⑨で修得した技術を用いて花の役割・色の持つイメージ等の基本確認を予習。作品制作の準備	30分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、復習・予習・実技デザインについて考えた内容を小レポートにまとめておくこと。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 毎回の実技課題・レポート等の提出で70%評価します。 授業への貢献・積極的関与を30%で評価します。		
課題に対するフィードバック		
毎回の授業終了時に提出された課題(作品)について講評する。		
教科書・参考書		
・講師作成プリントを配付 ・実技用の材料も講師が準備します。(但し、材料費35,000円は別途集金)		